

## 日本医師会災害医療チーム(JMAT)への薬剤師派遣について

平成 23 年 4 月 28 日  
株式会社町田アンド町田商会  
取締役副社長 坂本直隆

弊社では、岩手県山田町における第二次災害支援活動に備えた事前調査チームの報告(4月12~14日現地調査)から、現在、山田町は支援チームが多く、医療が過剰な状態ともいえるため、第二次災害支援先の再検討を試みていた。

その折、青森県医師会では、災害医療チームを編成して、岩手県大槌町で災害支援活動を行っているが、薬剤師が不足しているという情報を4月15日に耳にした。大槌町に薬剤師チームを派遣することが可能であるため、状況を確認することにした。

青森県医師会チーム派遣担当の常任理事中村先生と業務一課齊藤さんから、以下のお話をお伺いした。

大槌町は、病院・診療所は震災の津波により建物が被災し、保険医療体制が崩壊状態で、仮設診療所を建設予定ではあるが、救護所での災害医療が主となっている。青森県医師会では、3月中旬から岩手県大槌町へ JMAT(日本医師会災害医療チーム)を派遣しているが、少なくとも5月いっぱいには継続的な支援を行う予定である。

大槌町における青森県医師会の担当は、大槌高校避難所救護所である。大槌町で主要な避難所となっており、当初は1,000人規模だったが現在は270人が生活している。

他には、城山中央公民館に250人の避難所があり、大きく二か所に分かれている。

医療は、青森県と長野県で大槌高校救護所を、城山中央公民館救護所は沖縄県が担当して支援体制を保っている。

さらに4月25日から県立大槌病院の仮診療所として公民館(上町ふれあいセンター)を使って診療が始まる予定だが、しばらくは、この県病の仮診療所と大槌の青森隊と城山の沖縄隊の三本立ての医療体制で継続して行うことになった。

避難所は、これからも避難者がいることになるので、医療チームは継続してほしい。チームが存在すること自体助かるといわれている理由からである。

青森県では、3月24日から災害医療チームの派遣を開始し、6月5日まではチーム派遣のスケジュールが決まっているものの、チーム構成員に薬剤師がおらず、現場からは薬剤師が足りないという声が多い。

継続的に薬剤師の協力を要請しているが JMAT に申し込みがないのが現状であり、大阪府の薬剤師が現地に来ているが、5月3日で撤退するため、以後は薬剤師がいない状態となる。

処方を見てすぐに薬を揃えて出すことができないため、薬剤師がいれば非常に助かり、派遣を要請したい。

上記の談話から、弊社としても薬剤師支援の必要性が高いと思われたため5月3日より支援することを快諾した。

弊社薬剤師チームが行う支援活動としては、

- ・医療チームの一員として、救護所で調剤・服薬指導を行う。
- ・1か月以上と長期にわたるため、薬剤師チームを交代で派遣する。
- ・薬剤師間の引き継ぎを組織的に評価し、交代のロスを最小限にする。(質を低下させない)
- ・限られた医薬品で最良の処方が出来るように、医師に処方アドバイスをを行う。
- ・物資の選択と調達、搬送手段、供給方法、保管方法を評価する。
- ・通常医療への円滑移行も検討し、体制を確立することも念頭に置きながら支援する。

などが想定され、少なくとも5月3日午後から6月8日までの期間に弊社薬剤師チームを JMAT に参加させることとした。

## 第二次災害支援チームの紹介

平成23年5月3日~7日派遣分

薬剤師 原田生知(はらた せいち)  
薬剤師 西村宜朗(にしむら のりあき)  
総務担当 工藤源造(くどう げんぞう)